



うしろの物語

九

^ 12
4108
9



門へ12
4108
9

門へ10
4108
15-9

宇治拾遺物語卷第九目錄

- 一 濠口乃則淋とあしぬ事たきくもはれものりまじ
- 二 寶志和尚教乃事かうじ
- 三 越よお敷か女親者并止巻居事あしせん つるか とまきくんとまき
- 四 夕しうま巻り佛供居りた事あしけん
- 五 つね備さの節未佛くなく乃事つねづか
- 六 歌ふよんく被免罪事うたふよんく ながまぬらつと
- 七 大女寺別為女に嫁と為男者見事おほいあんじ べつたう かのこめり



宇治拾遺物語

博打等入乃事

Faint handwritten text, possibly bleed-through from the reverse side, enclosed in a rectangular border.

五

佐藤藏書

びり陽成院位にてねんし海老の所滋口通則
宣旨を承陸奥へさるるあはれ信濃ふれりうと
よこふりよなるとぬ郡乃司に全を城と事り海
きしてもてあしてはあふれ此船司を師お引具
くおぬつと福と事らるるあはれと事らるる
と事らるるあはれと事らるるあはれと事らるる
見風と事らるるあはれと事らるるあはれと事らるる
なうりよ志流るの事らるるあはれと事らるる
し此志流るの事らるるあはれと事らるるあはれと事らるる
てりんれと事らるるあはれと事らるるあはれと事らるる
あはれと事らるるあはれと事らるるあはれと事らるる

合記

つのありさうと奥州にて合をまわしてつるに又信濃
 のさし一郡司れをいゆまて合るとぬまて郡司に合る
 郡司の如くはあつてさうに郡司よつと一りあがてあつた
 いうおあがりしてわきまをさしつるに又信濃にさうく
 してつるに合るあつてさうに郡司のさしつるに合る
 一先あつてさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る
 といふ郡司のさしつるに合るに郡司あつてさうに合る
 わりともあつたさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る
 年よつとさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る

三浦

大なる事ハあるにありとてさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る
 年よつとさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る
 大なる事ハあるにありとてさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る
 年よつとさうに合るに郡司あつてさうに合る
 といふさうに合るにさうに郡司あつてさうに合る

三浦

〇五

戸の寺なるがどに養はんとあはるるのうらなれ堂より老
きる僧乃もくつうとつとわかれど男あえんと思
くもいよあがりせられどあまがうあはにまらうんもるま
かんとんよ志ごづひくあぶきあつこの路とんくさあぬ
お乃佛のたもをけへきあたりと思りて休うらあて
まつてあつく尸てあをきあもくうれ人を待てう
ちたれあどしてわつとあえん大きよははかりきりまれ
親うもて乃ららまえん信ぎあるか一きき事あまれと
むらとあかきあがりまれだうはえりぞあたりまると
けいきじろせとよあがりまをわあまににろ乃目けた
よありてさ乃あ一城とぞいしてあまこいんはよん

も乃ろまれどする城まれを旅人乃金どあるありま
まらんぞよあよとつとまれ入るくあはるまきりあ
むら一うまがれど地あづきある下もあてあま
も金りかろるれといふあんきり乃ろまてまれど
あつて三すろろとけいんあも入つとれまをあるたあ
高ホ二三十人ぞろとあつ下もあてあまもまて七十八
人ぞろあんぞぞえぬるそくわよ升るに建きん
そせむやとあつと色もつととあつとつとるうは子
建城らんく皮よりあぬくあまて幕引つてあぬ
うがくあつと目もまをぬまごも物とあまてあぬ地乃
あきうやあんぞぞいん地あつとあまてあつと

されど、夜もせほき神おてみへたるもそれの長者州
 とぞりりして、サ人たる人のあるよそのくすま
 庭うをちかく馬のまゝもなほ金を庭うもあがりぬれど
 いらよせほ——と思ふまじ死するやとよび庭うと流しあ
 つらぬき女乃びいせん乃あつととむるもいさきそれども
 死つらふまじと色あきしてよ死おとあつてことかあぬく
 あつととむかりのまじととあしきまがりたもいさきをぬよ
 死つらぬとあるが誰よかあんとと思ふくやぬる人乃きさ
 づととぬきまじとあぬがうや流流し——これぬと家沙
 乃とらにけそとさやうを乃きとあつら乃かたし海にあり
 と流しぬはい——とあむまぬよの年流のそとさうんぬと

思ふすまふとまふしとまふとまてとまらぬとつらあり
 かく使あつかりしゆすとあふあふくもわをゆあふとあ
 一ま——あふく——まふ自修くもあつととせあ——あふ——え
 思ふゆてまはせまごもまふとあつととあつとあつとあつ
 まつとん事まもあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 ぬれどあまくとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 人がととへたあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 流しあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 ぶらとまらあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ
 あつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあつとあ

ありとつたむぢりわたりのなるべき入るをあらう
らんといふをばさうまは思ふほどあはれなるに
人乃物くまをたをんを見まうせんこころであ
う又甲のいれは法べきをうそあはれ人よてあ
といふさういふをよれ事ありまふく色わあ
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
つをぬ人乃まきてまのりゆよをあらうさ
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく

てまのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく
まのりゆよをあらうさうれはゆらうそまふく

宇治

宇治

よき法をきくからしてかきよめる。師におく取きうち目かれ
もかぬる。乃らうよ遠くも人もと。稱光をばよくそとら
乃き法をかく志法のかしも思ひぬく。あふくまも
いへん。そとしそひの子あ。乃物命にすす物ありと思
く物乃か切ら。さうら。乃あ。く。か。ま。は。も。り。遠くは
うに物る。さ。り。し。人。法。の。法。を。そ。せ。光。を。れ。く。仏。師
と。ゆ。く。して。過。し。き。り。ゆ。く。て。ま。う。ま。を。ゆ。く。こ。れ。を。ま
を。造。ち。り。て。す。ま。う。う。て。供。養。し。ま。ひ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。
た。は。ん。ん。事。と。ま。ま。ま。ま。ん。ん。ん。ん。ぬ。も。あ。り。ぬ。く。じ。も
あ。ら。よ。い。れ。日。の。り。て。佛。供。養。し。ま。ひ。ん。ん。ん。ん。ん。ん。ん。
ら。の。う。と。ま。ま。ま。ん。ん。ぬ。く。い。ぬ。ま。て。謙。師。乃。あ。ん。り

あつてよ。せぬ。と。ま。く。これ。日。に。あり。て。謙。師。の。い。れ。ぬ。を。れ。ぬ。
き。り。あ。ら。よ。い。れ。入。ま。ら。乃。謙。師。の。い。れ。ぬ。を。れ。ぬ。
あ。ら。よ。い。れ。ま。い。り。よ。い。れ。ま。い。り。よ。い。れ。ま。い。り。
た。は。ん。ん。と。く。名。務。を。と。ま。て。さ。う。せ。り。す。ま。い。り。謙。師。の。い
れ。ぬ。を。れ。ぬ。と。あ。り。と。い。ぬ。を。れ。ぬ。と。い。ぬ。は。ん。ん。ぬ。
ま。い。れ。ぬ。は。り。ま。い。り。て。馬。城。乃。か。り。て。あ。ら。ぬ。
い。ぬ。乃。馬。城。乃。布。施。の。い。れ。ぬ。を。れ。ぬ。と。い。ぬ。
ま。い。れ。ぬ。の。い。れ。ぬ。乃。い。れ。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。
く。ま。い。れ。ぬ。の。女。乃。な。る。は。あ。ま。り。の。い。れ。ぬ。を。れ。ぬ。
あ。ら。よ。い。れ。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。
ま。い。れ。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。と。い。ぬ。

宇治

宇治

供養志く乃ち物成り千人きありといふをねんかか
ありきその座より乃ちつねもせよ此子のききなりと
く法師のよへく志をねんかき人をもくつとありあり
法師もてくつと心ききり講すくお録うらてその座
よりなりて物をせんとはある法師のよへくつと
座より成るなりといふく法師の物成りありありと
ありき其れをせんし家あり法師のつらり人とあり
ききん成るなりといふ人き成りなりき人ふありとて
一法師のよへくつと心ききりてありていぬ法師の
きくありなりやかかかか馬とつらりてありてあり
ありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり

ありてつと心ききりてありていぬ法師の
きくありなりやかかか馬とつらりてありてあり
ありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
きれもなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
所よりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
んとすとありなりなりなりなりなりなりなりなり
ありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
てんやなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
むりなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
ちくぜんなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
よありなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり
ゆきなりなりなりなりなりなりなりなりなりなり



今もむじろく 繁葉乃 大女も此別ありきる僧乃 女の
 毛髪を人ありきる人の志のむじろく かなふをたをめく
 思ふ一物もをれど せたくの 晝も 海も ありきるとあるとせ
 るふ福く ありきるまよ 依よ くれあ乃 くらに上下
 の人ともえく 時きあれきる 城の 城の 寺と 庵と
 あやし きれど 立おく きれし 志くとの 僧 晝に 尼云
 一物も せく ありきると ありきると ありきると ありきると
 さけて ありきると ありきると ありきると ありきると
 ありきると ありきると ありきると ありきると ありきると
 大黒おとに ありきると ありきると ありきると ありきると
 ありきると ありきると ありきると ありきると ありきると

志く乃こそして侍もどきしるる人なればいよも
あるに下らうたの縁もなほまぬれあり。おかし
まに布きする君は女房もきし。おかしにいぬ
おかしに侍の服さしめし。これこそ乃女も大なる御
おかしに御乃ゆは一太君の御も女房さしめし。こ
乃女もさしめし。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。

女房のれ物持もて。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。
おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。おかしに。

145
146

